

尚徳寮

令和7年3月24日

鳥取大学附属中学校

NO. 9

第77回卒業証書授与式

3月11日、第77回鳥取大学附属中学校卒業証書授与式が行われました。137名の卒業生は緊張しながらも堂々とした態度で式に参列し、卒業証書授与の際には、担任から呼名されると一人一人がしっかりと返事をして、礼儀正しく卒業証書を受け取りました。一人一人の表情には附属中で過ごした3年間の自信と誇りがあふれ出ていました。以下、霜村校長の式辞を紹介します。



式 辞



先ほど卒業証書を授与した137名の卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。附属中学校での生活はどうでしたか？楽しかったですか？皆様は3年前、R4年2022年の4月に入学しています。その頃は、コロナの脅威が継続していた中であり、1年生の時は学校行事において様々な行動が制限されていました。しかし、2年生の春以降からは、その制限が徐々に緩和され、様々な活動が活発化したのではなかったでしょうか。特に、4月の遠足、東京への

修学旅行、6月の運動会、そして、11月に全員で合唱をした文化祭、いずれも様々な活動ができるようになり、多くの友人とのかかわりが深くなり、絆が深まり、「良い思い出が」いっぱいできたのではないのでしょうか？

さて、本日は、卒業生の皆様に卒業するにあたりお願いしたいことが2つあります。

その1つは、「学ぶ姿勢」です。どんな姿勢なのかというのですが、「友達と一緒に学んで、お互いに教えあう姿勢」です。このことは、附属中学校では特に重要視して取り組んできたことであり、附中生徒に身に付けていただきたい姿勢です。ところで、学ぶ方法には、色々な方法があります。話を聞くこと、見ること、書き留めること、考えること、まとめること、応用すること、などがありますが、最も身につけやすい学習は、教えることです。これまで、授業の中では、隣のパートナーに教えること、班構成の学習、実験で話しあったことや教えあったこと。部活では励ましあい教えあうこと、また、縦割学習では、学年の壁を超えて、後輩たちに、教えたことなどがあります。こ



の姿は、附属中学校の素晴らしい点であり、誇るべき姿であると私は思っています。その教えあいの素晴らしさを最も強く私が感じたのは、文化祭の合唱練習の場面でした。朝早くから、学校に来て、自主的に合唱の練習をしていましたが、その中でも、教えあいながら合唱の練習をしている姿をみると、附中生徒たちの成長を実感することができ、胸がグッと熱くなるものがありました。



実は、教え合う姿勢には学ぶこと以外にもすごくいいことがあります。それは、心の通ったコミュニケーション能力が備わるといことです。さらには、そのコミュニケーション能力が向上することで、将来にとって、素晴らしい影響力を与える人に出会うチャンスが確実に増大します。一人の人間でできることには限界があります、友達やチームと一緒に力を合わせて活動することで、多くのことが実現できるようになります。このことを人脈といいます。実は、人脈形成は大人になるに従い、本当に大切だと実感することが多いです。ですので、附属中学校で身につけた素晴らしい「教えあう姿勢」は是非今後も継続し、素晴らしい人



脈作りを目指していただきたいと願っています。これが、最初に卒業生にお願いしたいことの1つ目です。

そして、もう1つ重要なことをお願いしたいと思います。それは、「附属中学校卒業生としての誇りと、附属中学校の伝統」を重んじていただきたいことです。実は、附属中学校の卒業生には鳥取県のみならず、日本や世界で活躍している多くいます。具体的には、学校の先生、医師、会社の社長、県会議員、そして、国会議員などです。そのような、活躍している卒業生が校長室にお見えになられ、附属中学校時代のことを懐かしく語っておられます。また、そのような先輩方は、「附属中学校の生徒のためになることであればどんなことでも協力したい」と常に言われます。さらには、4月に東京に修学旅行に行ったとき、附中生徒の研修に対して卒業生は積極的に協力をされたことを覚えていると思います。このように、附属中学校の卒業生は、後輩のために何かをしてあげたいという「文化」が確実にあります。おそらく、そこには、「附属中学校卒業生としての誇りと、附属中学校の伝統」が根底にあるのだと私は思います。先輩たちが後輩の附属中生に何かをしてあげたいという思いが附属中学校の生徒に伝わり、その生徒が卒業した後は、また、附属中学校のために貢献する。すなわち、先輩から受け取ったバトンを次の世代に受け渡すこと、これを「恩送り、恩のバトンリレー、英語ではPay it forward」といいますが、このような素晴らし「恩のバトンリレー文化」がこの附属中学校にはあります。どうぞこの文化に代表されるような「附属中学校卒業生としての誇りと、附属中学校の伝統」をずっとずっと持ち続けていただきたいと強く願っています。これが、私からの2つ目のお願いです。よろしく



お願いいたします。

さて、保護者の皆様、お子様のご卒業まことにおめでとうございます。保護者の皆様の深い愛情に支えられ、本日、卒業の日を迎えました。保護者の皆様には、給食を提供できない時のお弁当の準備、天候不順でJRが運休になるおそれがある時の早帰りへの対応など、様々な場面で、協力いただきつつ、お子様の成長を見守っていただきました。ご苦勞の多い3年間だったとご推察申し上げます。義務教育9年間の終了です。これまで、本当にお疲れさまでした。そしてありがとうございました。

結びに、卒業生の皆様の今後のご活躍を祈念しつつ、ここ附属中学校から確かな一歩を踏み出してくれることをお願いして、式辞といたします。

令和7年3月11日

鳥取大学附属中学校 校長 霜村典宏